

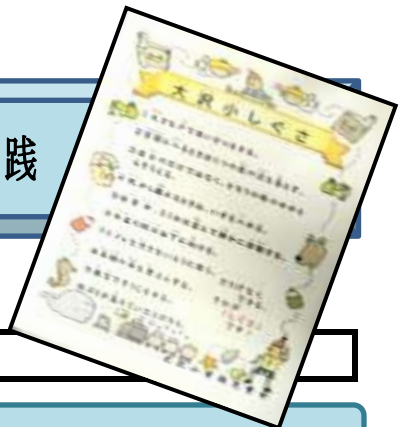
思いやりの気持ちや規律意識を育てる「しぐさ10項目」の実践

その他—思いやりと規律の育成—

◆ 所属・提案者（◎代表者）

美里町立大沢小学校

福田 勇人



実践のわらい

○学校・家庭が連携し、「大沢小しぐさ実践活動」をおこない、児童が何気ない心づかいを積み重ねていくことで、「思いやりあふれる学校」づくりにつなげていく実践活動にする。

実践内容

①「大沢小しぐさ」の内容考案

本校出身の保護者が多く、保護者が実態を理解しているため、平成24年に保護者から「大沢小児童の良いところ」アンケートをとり、「大沢小しぐさ」13項目を作成し、実践活動が始まった。平成25年度に児童会を中心に新たに項目を含め、10項目に精選し、再度児童会主体の実践活動が始まった。



しぐさ4「いすをしまう」

「大沢小しぐさ」
実践児童写真掲示



しぐさ8「本棚の整頓」

【大沢小しぐさ】10項目

- 1 大きな声であいさつをする。
- 2 玄関に入るときは靴の底の泥を落とす。
- 3 自分だけではなく、となりの靴のかかともそろえる。
- 4 机から離れるときには、いすを入れる。
- 5 授業中、ろうかは並んで静かに移動する。
- 6 水道の蛇口は下に向ける。
- 7 トイレを汚さないように使う。
- 8 本棚の本を整頓する。
- 9 無言で清掃をする。
- 10 ゴミが落ちていたら拾う。

何気ない心づかいの積み重ねが、「思いやりあふれる学校」をつくる

②意識づけの取組

- 「大沢小しぐさ」を校内に、実践写真付きで掲示する。
- 全学級で、各項目についての共通認識を持つための、共通学習を実践する。併せて、定期的に具体的指導を繰り返す、意識化を図る。
- 児童の声で録音した「大沢小しぐさ」を給食の時間に毎日放送したり、「大沢小しぐさ」の全員暗唱実践を行う。
- 実践活動への評価を随時行う。(特によく実践できている項目については、朝会等の機会を使って賞賛したり、各学級で月毎評価を実施)



しぐさ6「蛇口は下に向ける」

実践時期・期間

平成24年から現在に至る

靴の泥落とし



無言清掃

気がつきゴミ拾い



実践の成果や課題

【成果】

- 「大沢小しぐさ」を意識させることで、思いやりを持った規律ある行動が見られるようになった。
- 礼儀正しく、節度ある生活が、学校・家庭・地域でできるようになった。
- しぐさの各行動が、校内の人間関係を円滑にしている。
- 生活指導のよりどころとして、児童が確認しやすく身に付けやすい共通項目となっている。

【課題】

- より具体的な行動ができるよう、方策を考えていく。



セールスポイント

- ちょっとした心配りができるようになる。
- 何気なくできるようになることで、全体的な規律が守れるようになる。
- 「思いやり」や「感謝の気持ち」、「学校への愛着」が芽生える。



他校で導入するポイント

1. 児童会が中心になって作成

- ①地域や保護者の学校への関心が深まる。
- ②地域や保護者が、学校に対して何を望んでいるのかが見えてくる。
- ③自分たちで考えたものだけに、実行しようとする意欲も高まる。

2. 「しぐさ」の意味を理解した指導

- 「しぐさ」とは、何気ない心遣いであるため、強制的にさせるものではない。そのため、その指導は自然な声かけと、環境づくりである（掲示物等）。身に付くまでに時間がかかるため、教職員全体で共通理解を図り、粘り強い指導が重要となる。

3. 「しぐさ」は多くても10項目まで

- 「子供たちに身に付けてほしいこと」を考えると、きりがなくなる。そのすべてを項目にあげても、子供たちは実行できない。そのため、多くても10項目が妥当である。

4. 「●●小しぐさ」を定期的に子供たち全員にアピールする場の設定

- 例えば、全校朝会である。よくできている「しぐさ」を子供たち全員の前で賞賛することで、「しぐさ」の意識づけになる。

失敗しないための方策

1 共通指導！

- ◆決められた「しぐさ」を子供たち全員に同じように身に付けさせるには、児童一人一人に共通した指導を行う。規模が大きい学校ほど大変になるが、学年やブロックごとで、指導の仕方や疑問点を確認し合うことで足並みをそろえることが重要である。

2 他の「決まり」や「約束」との区別の明確化！

- ◆各学校には、それぞれ『決まり』や「約束」があると思う。「しぐさ」を考える場合、それらの「きまり」や「約束」と文言や意味がダブらないようにし、「これは、●●小しぐさだ！」と児童の中で明確にできるように工夫する。

3 斬新な内容より普段の指導内容！

- ◆本校の「大沢小しぐさ」の10項目の内容に、斬新な内容はない。おそらくどの学校でも、指導されている一般的な内容である。普段指導されていることの方が、「何気ないしぐさ」になりやすい。斬新な内容は、インパクトはあっても一人一人の定着に、より時間がかかると考える。

こうすればより高い効果が得られる方策など

1 児童の実態に合わせて内容を追加

- ☆児童の実態は変わってくるため、「しぐさ」の内容も実態に合わせて変えていくとよい。例えば、よくできている項目と新しい課題を入れ替える。この作業は、児童会が中心となって行う。子供に行わせることで、よくできるようになったことは何かを児童自身が実感することができる。また、新たな課題について問題意識を持つことができる。

2 改定内容は、保護者に連絡

- ☆改定した内容については、「学校だより」等で各家庭にお知らせする。保護者に「しぐさ」の内容を知ってもらうことで、家庭での指導を促すことができる。「学校だより」のほかにも、「学級新聞」で保護者にお知らせをすると、より温かみを感じる。

外部有識者からのコメント

当たり前のことが当たり前にできることの大切さがまとめられている。若い人たちにどうやって学校文化を継承していこうかという点での工夫。学校と家庭が連携して取り組み、保護者の意識を高める上で重要。また、しぐさを子供たちに選ばせたところで、子供たちに責任がある前提をつくったところは、うまいやり方だと思う。この学校では生活等で実際にどんな課題があり、このしぐさがそれらに対してどういう意味を持つのが分かるかと更により。